

平成28年 7月21日発行

まなざし

横手清陵学院PTA会報

発行 秋田県立横手清陵学院中学校PTA
秋田県立横手清陵学院高等学校PTA
編集 横手清陵学院PTA広報部



入学式 (4月6日)



体育祭 (6月24日)

近年は日本全国、地域に関係なく様々な深刻な事故・事件が発生しています。多くの人と人のつながりが安全な社会をつくっていくと思えます。

学校での勉強や部活動の様子、家庭での家族との接し方などで気になることがあった際には学校と家庭間で連絡を取り合い、子どもたちのちよつとした変化を見逃さないよう気を配る事が大切だと思います。そのためにも学校と家庭との垣根を低くし、お互いが話しやすい環境をつくり常に情報共有を図る事が必要ではないでしょうか。

子供達は今、勉強・部活動を通して精神・身体を鍛え人間性を磨く大切な時期にあります。ただ今日は、自分達の過ごした高校時代にはなかった携帯電話やインターネットの普及など、社会環境が大きく様変わりし、子供達の友達との付き合い方も変わり、予想もしない悩みやストレスを抱え込んでいる事もあるのではないのでしょうか。



つながり
高等学校PTA会長
小松 俊 晴

今年度は役員も決まり、それぞれの専門部の活動がスタートしました。役員を引き受けて頂いた保護者の皆様有り難うございました。今年度横手清陵学院も13年目になります。PTA活動への参加者が減少しているように感じています。この横手清陵学院は皆様が存じの通り、いろいろな地域から生徒が通学しています。だから登下校の際、地域の方々の関心というのは他校より多いのではないのでしょうか。子供達の学校生活の様子など家庭では分からない部分をもっと知って頂き、関心を持ってもらえたらと思います。そして保護者の皆様には、今まで以上に積極的に学校に足を運んで頂き、今まで築いてきた清陵の良いところを残し、更には改革しながら、今まで以上に、子供達と一緒にこの横手清陵学院を盛り上げていけたらと望んでいます。私も今年1年間、中学校のPTA会長として微力ながら頑張っていきたいと思えます。

これからも校長先生をはじめ、教職員の皆様、そして保護者の皆様にはより一層ご協力の程宜しくお願い致します。

今年度から横手清陵学院中学校・高等学校の校長として赴任しました。どうぞよろしく願っています。



PTA活動への参加を
中学校PTA会長
柴田 裕 子

家庭でも、子どもさんと話し合っ、使用時間やどんなことに気をつけて使用すべきかといったルールを作っていたらいいと思います。便利な機器を気持ちよく使うために、学校と家庭の協力が大切だと考えますので、よろしく願っています。

横手市内8中学校の生徒会代表が集う「Y8サミット」では、いじめ撲滅のための「創快宣言」の中で、SNS等を利用する際の留意点として「その言動で傷つく人がいないか考えてから行動します」という宣言がされています。学校では、4月28日に「情報モラル教室」を開催しております。一度ネット上にアップした情報は、文章であれ、写真であれ、不特定多数の人に見られる危険性があることを十分認識して、節度を持って使いこなすことができよう、指導してまいりたいと考えています。

さて、入学式後のPTA入会式でも触れましたが、この機会に、ネットトラブルの防止についてのお願いを書かせてもらいます。携帯電話やスマートフォン所持する高校生は9割を超え、中学生でも半数以上が所持しています。電話やメールなどの通信手段のほかLINEやSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を利用する中高生も多く、インターネットに簡単に接続できることから思わぬトラブルに巻き込まれることも限りません。



ネット利用のルール作りを
校長
西村 充 司



清陵生の活躍

親の感動

部活動に期待

子どもが中学・高校時代は“親バカ”でいいのです。 今何ができるか…我が子と一緒に親も成長しよう!

5年目の保護者会を終えて…
高校男子バレーボール部保護者 大久保 智子

次男が入部した2年前、3年生の長男達が活躍する姿を見て、これからの部活動を楽しみにしていました。ところが、次男の同学年の部員は2人だけでした。2年生の4月に新入部員を迎えられるのか、とても心配していましたが、同じ中学校の頼もしい後輩とバレー未経験の3人が入部してくれました。これで、公式戦に出られると喜んだものの、息子が思い描いていたバレーとは、ほど遠いものだったと思います。ギリギリの人数で、全員で協力しながら日頃の練習に取り組んで頑張っていました。勝つ喜びを味わった試合はごくわずかでした。それでも、怪我や病気で1人もメンバーチェンジができない状態で、すべての公式戦に出場することができました。

また、能代大会では3位入賞という結果を残し、素晴らしい試合を見せてくれました。最後の県大会では、接戦の末、惜しくも敗



れはしたものの、最後までこのチームを引っ張ってきた2人の3年生の姿に胸が熱くなり、心から今までの頑張りを讃えたいと思いました。これまで、ご指導いただいた先生方、チームのために一生懸命サポートしてくれたマネージャー、入部してくれた後輩達、そして親の会を盛り上げてくださいました会長をはじめ保護者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

「ものづくり」と「仲間づくり」
高校メカトロ部保護者 伊藤 健一

メカトロ部は、開校以来、個性豊かな部員たちが協力して様々なロボット競技に挑戦し、成果を上げてきました。そんな私の話を聞いてかどうかはわかりませんが、ロボット大会に興味があった我が子たちが入部し、お世話になっています。大会が近づくとも何日も夜遅くまで根気強くロボット製作に打ち込むこともあり。大変ですが、仲間とワイワイ楽しそうです。

最後に、10月には、本校でロボット相撲東北大会が開催されます。チームワークを大切にして健闘することを期待しています。Fight!

この練習が実になる時
高校男子ソフトテニス部保護者 高橋 保

13人の新入部員を迎え、総勢28人、2面で間に合っていたコートも今では狭く感じる。3年生が最後の年、私達保護者に何ができるかと自問自答のこの1年だった。

清陵でソフトテニスができる事に自信と誇りをもつて進んでもらいたい一心で、練習場所の確保など、やれる事を支援してきた。新コーチを迎え、OBの協力で、何よりも充実した練習ができた。しかし、新人戦とインドア大会ではその結果を出す事ができなかった。



また、能代大会では3位入賞という結果を残し、素晴らしい試合を見せてくれました。最後の県大会では、接戦の末、惜しくも敗



清陵でソフトテニスができる事に自信と誇りをもつて進んでもらいたい一心で、練習場所の確保など、やれる事を支援してきた。新コーチを迎え、OBの協力で、何よりも充実した練習ができた。しかし、新人戦とインドア大会ではその結果を出す事ができなかった。

冬場の体育館雑巾がけダッシュが、いつか実になる事を願っていた。

それが現実となり、県南総体では個人準優勝、団体3位という結果を残す事ができた。

また、東北大会まで駒を進め、細川・山石ペアが大健闘した。

確かにこの結果は選手の努力の賜物であるが、先生始め、コーチ陣、部員、保護者が信頼しあえる事ができたからこそ生まれた結果だと信じている。

熱心な部員、指導者と保護者に、最後の部活で巡り会えた事にとても感謝している。

部活を通じた子どもの成長

中学校野球部保護者 熊谷 英樹

3年生1人含む計12人の野球部は、礼儀やあいさつの大切さ、気配りを大切にして他のために行動できる心、苦しいことから逃げない心、学業をおろそかにしない心をモットーに日々



の学校生活を大事にし、部活動を送ってきたと思います。

炎天下の中での走塁やノック、雪が降る寒い中でのランニング練習、試合中のミスでチームに迷惑かけたこと、自分の投球に納得

いかず悩んだことなど、心身の成長期に野球を通して、これらを体験してきました。そこで得た経験は、大人になるまでの間、進路のことをはじめ、社会に出て挫折したときなどに自分を見つめ直すツールとなって、前に進む勇気を与えてくれると思います。

横手明峰中に14対2で敗れましたが、点数差の重みを悔しさに変え、これからの糧として、歩んでほしいです。

野球は、1人でプレーするのではなく、学校の皆様のご指導や支えてくださる周囲の協力、地域住民の応援の下に、チームがあることを忘れてはなりません。

感謝の心を今以上に持ち、爽やかで覇気のあるこれからの清陵野球部の飛躍に期待しております。

柔道部の活動について

中学校柔道部保護者 能美 富士子

中学校柔道部は現在2名の部員で活動しています。練習は高校柔道部と合同で行っています。先輩たちの刺激を受け、毎日練習に励ん



でいるところです。

今年も春季大会から始まり、市総体に出場しました。春季大会、市総体の個人戦では優勝することができ、現在全県大会に向け、練習にも力が入っているところで

私自身、子どもたちの柔道を見守り、7年になりま

静かな柔道場に響く「一本」の判定の声には感動します。柔道は個人競技ということもあり、自分自身との戦いになるので精神的にも成長しているのではないかと思っています。

秋季大会になると3年生も引退し、2年生が部活動の主力となります。是非、全県大会で成績を残せるよう努力して欲しいです。指導して下さい先生方や先輩、保護者の皆様に感謝



部活を通じた子どもの成長

中学校サッカー部保護者 照井 真利

今年のサッカー部は1年生が11人も入部してくれました。2年生が5人、3年生が4人なので全員で20人になりました。今までと違いチーム内での競争意識が高まり、良い環境で練習していると思います。



は、科学部から2名の選手を借りてギリギリの人数で挑みました。ところが地区大会では2位となり、県大会へ出場することになりました。子ども達には申し訳ないのですが、予想外の出来事にびっくりでした。県大会では西



目と対戦して惨敗でしたが、奇しくも今年の春の県大会でも西目と対戦することになりました。「いざ、リベンジー」と挑みましたが、惜しくも0対1で負けてしまいました。試合を観る度に子ども達が成長しているのを感じます。指導して下さい先生、コーチ、保護者の皆さんには本当に感謝しています。これからの清陵サッカー部の活躍に期待です。

文化部の事業計画について

高校文化部長 武藤 美代子

今年度の文化部の事業計画としては、7月31日に横手市P連主催のバレーボール大会への参加と、9月10日に学校図書館整理ボランティアを計画しております。また、例年ではスーパースイェンスレクチャーなどの講演会の補助もしていますが、今年度は、日程が決まっておらず決定次第サポーターでやるような体制をとっております。



毎年バレーボール大会では、9人制とビニールバレーに参加し熱い熱戦が繰り広げられているので、見所満載のバレーボール大会に是非、参加と応援をお願いします。大会にむけて、7月12日(土)28日の(火)・(木)学校体育館にて練習予定です。中高の保護者がひとつになれる絶好の機会です。とても楽しみです。図書整理も多くの子供達が利用しやすい図書館をめざし、毎年頑張っていきたいと思います。



環境整備部の活動について

高校環境整備部長 高橋 幸子

6月11日、好天に恵まれ、朝のさわやかな空の中、花壇に花苗を植える事が出来ました。サルビア、ペゴニア、マリーゴールド、インパチエンス、メランポジウムと彩りも鮮やかで、元気な気持ちにしてくれる花達です。中高環境整備委員会の生徒、先生方、保護者が協力して作業しました。今年度は穴あ



きシートを使用したもので、効率良く、整然と作業できました。全体のバランスを考えて配色されていますので、PTAや送迎で学校にお越しの際は、是非ご覧になって下さい。年間を通しての事業内容は、春、チューリップの球根掘り、花壇の整備、花植え。秋、チューリップの球根植え、そして水やり、除草作業です。日々の水やり、除草作業は委員会の生徒が中心となっております。また、清陵祭では、チューリップの球根を販売する予定ですので、どうぞお楽しみに。



校外生活指導部の活動について

高校校外生活指導部 村田 邦子

今年度も4月7日から「第1回さわやか清陵運動」が始まりました。6月12日には、皆さまにご協力頂き、交通安全の旗を設置、翌日から「第2回さわやか清陵運動」を実施しました。今後の予定は、9月末に「第3回さわやか清陵運動」と10月に交通安全の旗を撤去します。兄2人が在学中から毎年参加し、朝の挨拶で子供達から元気をもらっていましたが、いよいよ今



年は娘で最後になり、淋しくもあります。毎朝、家族を見送る際、言葉(ことば)を信じ必ず声をかけ、今日も無事で...と祈ります。活動の際も同じように、できるだけ一人一人に向けて「おはよう。気をつけてね。」と声をかけております。どの子も少し嬉しそうに頭を下げて行く姿を見ると愛おしくなり、素直な清陵生と写ります。「子にまさる宝なし」。平凡な毎日が繰り返されることに感謝し、今後も皆さまと共に「宝」を守る活動をしていきたいと思っております。



親子で楽しめる広報誌に

高校広報部長 鈴木 政憲

今年度もPTA会報「まなざし」作りがスタートしました。年数回の編集会議では、PTA広報部員の多彩な意見をもとに取材計画から紙面作りへと発行に向けての計画が作られます。今年度の作成編集テーマは「親子で楽しめる情報誌的存在に」。年3回という限られた紙面でどれだけ清陵の情報を発信できるか、というところ



ですが、今回は早速の企画として「学食と購買」の取材をしました。県南の高校では2校だけという学食と、軽食・弁当から制服のソックスまで何でも揃う購買の魅力は、親御さんだけでなく生徒さん、先生方にも知ってほしい、そんな思いでいっぱいです。美味しい安い身近で便利、の三拍子揃った学食と購買のよさが読者の皆様に伝わってくださることを期待しつつ、今後の「まなざし」がどんな記事でPTA会員のみなさまにお届けできるのか楽しみです。原稿依頼の際はご協力よろしくお願ひいたします。



そうだ、清陵には

学食がある！購買もある！

「そうだ！学食に行こう！」の広報部企画から3年。横手清陵学院の学食は今どうなっているのか？そして購買も見てみたい！気になって仕方がない広報部が潜入取材をしました。

学食編

まず訪れたのが学校食堂、通称「学食」。大きな窓、2階まで吹き抜けの天井。明るく開放的な雰囲気は3年前と何も変わっていません。鶏の唐揚げやトンカツを揚げるいい匂いが広がっています。厨房の方を覗くと、大量の挽肉を炒める調理員さん、その手前に見える配膳台の上には、単品注文としてよく売れるという「鶏の唐揚げ120円」がずらりと並んでいます。そしてその唐揚げと一緒に並んでいるのが「チャーハンおにぎり」なんと100円。実際に食べてみましたが、濃すぎない程よい味付けに、大きさはコンビニおにぎりの約2倍とくればもう誰も放っておきません。早速、4校時前の高校生がささっと買ってマヨネーズをかけて頬張って行きました。



程なく今度は、何やら四角い物体がラップに包まれて並べられていきます。さっそく質問。「その四角いのは何ですか？」すると奥の調理台からラップに包む前の商品を持って来てくれました。「これは今年の新商品、清陵カツサンドです。いつも売りが切れる人気商品です」ハイ、ソク購入。学食の人気メニューである清陵カツ丼に使用されているカレー風味のもの肉のカツと千切りキャベツにマヨネーズ、これを六枚切りの厚い食パンで挟んだこのカツサンド。食べ応え十分ながらお値段は…たったの100円！ま、まじで？

取材中、K谷先生がご来店。日替わり定食500円を注文、週何回くらい来店するのか聞いたところ「ほぼ毎日です」というお答え。「ご飯もおかずもボリュームあるし美味しいし、野菜とタンパク質などのバランスもよくて大満足です」と言いながら笑顔で豚肉を頬張っておりました。厨房に聞いたところ、お米は自家製のあきたこまちだ

そうで、なるほど美味しいはずですよ。そんなこんなで

昼休みに突入。まずは続々と男子高校生が入ってきました。注文したのはほぼ全員が裏メニュー「カレールー単品150円」。持参した弁当箱一杯のご飯がどんどん進んでいきます。加えて肉そば420円も注文する生徒が続出。ボリュームのあるかけそばにチャーシューが4枚も乗った肉そばは、静かなブームのようです。



たくさんの注文に丁寧にご飯を提供する調理担当の高橋さんにお話を伺いました。まず第一声は「親のみなさんにも食べてほしいんですよ」。清陵祭など学校を訪れた機会にぜひ寄ってみてほしいのですが、取材をしている広報部全員も、その美味しさとコスパの高さに驚愕しているところ。これからの暑い夏に向けて「ソフトアイス200円」や「冷やし担々麺」など気になるメニューも要チェックですね。

購買編

さて次に訪れたのは購買です。パンやおにぎり、デザートと共に、文具も限られたスペースにぎっしりと並んでいます。販売担当の永沢さんに売れ筋を聞いたところ、やはり定番の「シューパン150円」「カツパン190円」に加えて最近はおぶりプリン103円は男子学生にも人気だそうです。さらに前日までの予約で購入できるオムライス弁当やチャーハン弁当(各300円)も人気があるんだとか。そんな購買での混雑のピークはやはり昼休み。しかし購入する生徒さんたちの様子には最近よい変化が見られるらしいのです。「去年くらいからでしょうか、当時の高1が混雑時に並び始めたんです。したら高2、高3もそれに倣って並び出して。今ではきちんと行列を作って順番に買ってくれるようになりました」みんなが自らより良く変容できる清陵生の一面に触れ、なんだか温かい気持ちになりました。生徒さんも親御さんもぜひ一度訪れてみてくださいませ。





教えて教育実習生

今年も卒業生が教育実習にやって来ました。母校に帰ってきて何を感じたのかコメントを頂いてみました。

忘れられない3週間

教育実習生 山中 愛

不安の中でスタートした教育実習でしたが、素直で明るい生徒の皆さんと、優しく温かく指導して下さった先生方のおかげで、充実した3週間で過ごすことができました。同時に、「教師になりたい」という気持ちを強くすることができました。本当に感謝しております。

数年前のことなのに、青春真只中の生徒の皆さんを見ていると、懐かしさと同時にうらやましく思いました。たくさん笑ってたくさん悩んで、一瞬一瞬を後悔しないように全力で突っ走って下さい。皆さんと出会えたことを忘れません。ずっと応援しています。



教育実習を終えて

教育実習生 千葉 幸大

5月24日から6月3日までの2週間、教育実習生として再び清陵で過ごし、様々な貴重な経験をさせていただきました。今回の教育実習を通して、生徒の時には感じることができなかった、教師という仕事の大変さと大切さを知ることができました。

一方で授業、ホームルーム、部活動など、様々な場面で

生徒たちの成長を感じることができる、やりがいのある仕事であるとも思いました。後輩である生徒の皆さんには学習や部活動に精一杯取り組み、実りのある学校生活を過ごしてほしいと思います。

2週間という短い間ででしたが本当にありがとうございました。



教育実習を終えて

教育実習生 今氏 敬甫

私は、教育実習生として4週間お世話になりました。初日は、4週間ということもあり、先は長いと感じていましたが、最終日になるとあっという間に感じていました。

教育実習を通して、生徒の頃に見えてこなかった先生方の苦勞や喜びを見たり、体験したりできました。自分自身も、何度か苦しくなったこともありますが、乗り越えることができました。それは、生徒方がいることによって、がんばろうと思えたからです。清陵学院は、先生、生徒ともにとっても優秀な方々がいる学校だと改めて感じました。

これからは、清陵学院のOBとして、自分自身を高めていこうと思います。4週間ありがとうございました。



第24回 「青春回顧録」

PTA会員の方からご自身の学生時代をテーマに筆頂きました。

→ご自分の青春時代と比べてみて下さい。

リアルPPG

M・K

自分が高2の時、新発売のゲームソフトはお店に並ばなければ買えませんでした。

自分を含めた3人の仲間は夜中にドラクエをゲットするため、十文字から横手のおもちゃ屋さんを目指し出発しました。もちろん徒歩です。免許があればいいなあ、早く大人になりたいなあと思っていました。それは雪の日でしたので長靴なんてダサいものを履きたくない高校生はスニーカーでべちゃべちゃになりながら醍醐をこえて目的地へと歩きました。しんどいなあなんてちっとも思いませんでした。途中自動販売機が何度も出てきました。殴ってもジュースが出てくるとは思いませんでしたが無性に殴りたくなりました。理由はわかりません。ただ、自分の存在を知らしめたいというか。でもやめました。

目的地に着き、最終的にゲームを買うことは出来ませんでした。なぜならお金を持っていかなくなったから。でも3人の仲間は笑顔で始発の電車で十文字に帰ってきました。

何をしたかったのでしょうか。でも、楽しかった。あの時の仲間の事は今でも鮮明に覚えていて、これからも忘れないと思います。これが自分の青春回顧録です。



あとがき



最近、万年筆にはまっています。文章を作るときにパソコンや携帯などは、あつと入力すれば、その1字から始まるキーワードが大量に提案される、終わってみると、え？自分が言いたいニュアンスと違っていて思ったりします。

それと比べ、万年筆を使い一字一字を自分が選び文章を作り上げていくと、なんと言ふことでしょうか。多少、他人には難解でも自分が何を言いたかったのかがはっきりと形になって現れるではありませぬか！そしてこのめっちゃくちゃな文とは裏腹に、言いたいことが全部自分の言い方で言えた達成感。最後には、おお！自分ってこんなことを思ってたんだ、考えてたんだ！という新しい発見！もはや万年筆は、自分が何を考えているかを包み隠さず具現化できる、自分だけの嘘発見器ともいえます。

話はかなりずれましたが、変換、変換、検索もいいですが、たまには文章もいい。広報部になれてよかったです。あ、それと別に万年筆じゃなくてもいいです。



清陵ホームページ



広報部メールアドレス